

研究内容1 見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学びを実感できる指導の工夫

「見方・考え方を働かせた主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した指導事例

第5学年 単元名 伝記を読み、自分の生き方について考えよう

教材名 「やなせたかしーアンパンマンの勇気」 授業者 高山市立南小学校 道上 幸佑 教諭

1 単元構想の工夫

本授業では、単元構想を練る段階で次の工夫を取り入れた。

① めざす子どもの姿を具体化

学習指導要領に示された書く指導事項の指導内容を基に、本単元で「どんな力を身につけてほしいか」を意識して具体的な指導内容を設定した。具体的には、下記の表のように整理することができる。このような単元構想の在り方が単位時間の役割を明確にするとともに、単元を貫く課題づくりにおいて有効であると考えられる。

指導事項		指導内容	具体的な指導内容
知識及び技能(3)	オ	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくこと。	伝記の特徴を理解し、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づく。
「構造と内容の把握」	イ	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	「やなせたかし」がどんな人生を歩んだのか、出来事やそのときの思いを整理して捉える。(人生年表の作成)
「精査・解釈」	エ	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	複数の叙述を結びつけ、それらをもとに生き方や考えなどを総合的に判断し、その人物像(筆者が伝えようとしたやなせたかしの人物像)を思い描く。(人生年表、付箋を活用した人物像追究)
「考えの形成」	オ	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	伝記を読んで自分の心に響いた言葉や生き方などをまとめる。(紹介カードをつくる)
「共有」	カ	文章を読んでまとめた意味や感想を共有し、自分の考えを広げること。	自分が興味をもった伝記を読み、自分の生き方について考えたことを伝え合う。(紹介カードの交流)
言語活動例	イ	詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。	学校図書館、市立図書館と連携して様々な「伝記」を取り寄せ、並行的に読書活動の充実を図る。伝記を通して自分の生き方などについて考えたことを伝え合う。

② 魅力的かつ必然性のある学習活動にするための工夫

- 単元の導入時に、教師が作成した伝記の紹介カードを示し、今後の学習活動やどんなことができればよいかを明示するとともに、子どもの学びへの好奇心を高めた。
- 学校図書館、市立図書館と連携して様々な「伝記」を取り寄せ、並行的な読書活動の充実を図った。

2 仲間と伝え合い、自分の考えを深めることができる発問や場の吟味・工夫

① 構造と内容把握

- 伝記の構造把握：やなせたかしの人生を年表形式で整理する活動をグループごとに行った。

② 精査・解釈

- 出来事と人物像の理解：文章から捉えた人物像を付箋に「〇〇な人」と簡潔にまとめ、どの叙述が根拠になっているかをノートに書いた。
- 人物像の追究：グループ内で人生年表と付箋を使って交流し、複数の描写を関連付けて、人物像を総合的に考察した。自分と他者との共通点や類似点、相違点について互いに質問し合いながら交流を進めた。積極的な対話が見られ、対話による「気づき」を価値づけた。

③ 考えの形成、共有

- 考えの形成：やなせたかしの言葉や行動、人物像から、自分たちの生き方へのヒントを得た。
- 紹介カードの作成：自分が読んだ伝記で、自分の心に響いたに残ったエピソード、人物像をまとめた。
- カード交流会：意見を出し合い、他者の考えを取り入れる場を設けた。

単元構想の段階で目指す学びの姿を具体化し、魅力的で必然性のある学習活動、課題追究のための対話の場を目的的に設定することで、子どもたちが主体的に学びを深められる授業づくりが可能となった。

対話の視点をさらに精査し、複数の描写を関連付けることをもっと高める必要がある。